

生活である。けれども今日は今日の資本主義の時代に於てしむを得ないから、云ふ一つの精明であります。私は長年貧民窟に住んで居りまして、一つの眼を開きますそれは「私しや買られて行くわいな。ミ、さん御無事で又か、さん、助平さんも折々は使ひ聞きたり聞かせたり」云ふのであります。

忠臣蔵のお籠

此頃は忠臣蔵の唄であります。おかるを歌つて居ります。貞操な女が経済上の壓迫の爲に賣られて行く、其有様を歌つて居ります。不幸にして今日の資本主義の社會に於きましては、此おかるの歌ふ事は事實であります。でありますからして今日の経済組織は遂に、ウオレン夫人のおかるを生む様になつたのであります。それで私は可哀想な少年、可哀想な婦人、或は可哀想な密淫賣の徒を考へる時に、唯所謂墮落した、彼の汚ない女云ふ事は出来ません。私は此等の人を考へる事が出来ない様な事實を澤山行つて居ります。私は寧ろ此等の不幸の婦人を、一瞬か二瞬の端た金を以て、赤ん坊の下劣な男子を産むものであります。

私は是等の貧民窟の娘を資本として養殖を賣る所の女郎屋の存主、其可哀想な婦人を保護の名の下に於て、此等の可憐なる所の婦女から税金を出させる役所向は遊廓から市議員を出して、可哀想な所の婦人達が保護せられて居るを考へる政府に對して反抗したいと思ふのであります。

私は一體娘の何人が、果して自分の志願で娼妓になつたかを知りたいのであります。私は娼妓の志願者の多くが貧乏に堪へ兼ねて、しむを得ずなすも斯う云ふ所の生活を考ふるものであると思ひます。貧民窟の娘が、悲しき貧苦の爲に貞操を賣るのは其娼妓になりし原因を調査すればよく分ることあります。大阪府の衛生課長をして居る、上村氏が八百九人の娼妓に就て研究してらつしやる、其統計に依りますと、其内で八百九人の内僅かに四人、たった四人だけ、本人の希望で娼妓になつた云ふので、他の八百五人は皆他の理由に依るものである。家が貧乏だから云ふのが三百六十四人、家族の者に、病人があるが爲に云ふのが百六十八人、自分の借財の爲に云ふのが八十人、家の墜落を救ふ爲に云ふのが五十五